

男性だけスペイン「美食倶楽部」

探訪 新ライフスタイル

いくケースが多い。近所付き合いや地域祭りに参加する高齢者に比べ、一人暮らしで交友が少ない高齢者は、介護・死亡リスクが1.7倍以上上昇するとのデータもある。

男性が健康的に交流できる機会や居場所として、スペインのサン・セ



スペインのサン・セバスチャンの「美食倶楽部」では男性のみが厨房に入れる

退職後理想の「たまり場」

昨年、テレビのドキュメンタリー番組で知り合いの高齢女性7人が同じマンションの部屋をそれぞれ購入し、仲間と交流しながら暮らす姿が映し出された。老いの不安や健康上の問題などを抱えながらも、孤立せずに

前向きに生きる姿が印象的だった。お茶を飲んでのおしゃべりや、食事会、女子旅と盛りだくさんで出かける機会も多い。

一方、男性は仕事での会合や限られた会社仲間での飲み会など、コミュニティサークルは案外狭い。退職すると、社会との接点が減り孤立して

バスチャンにある「美食倶楽部」が参考になるのではないだろうか。サン・セバスチャンには「男は外で働き、女は家を守る」との考えの下、男性は厨房から締め出されてきた。料理好きの男

性らは家の外にキッチンを借り、仲間同士で食べたいものを作って交流する美食倶楽部ができた。最古の倶楽部は1870年設立といい、現在100を超える。男性だけがCキッチンゲスタジオリン（東京・千代田）は、男性生徒数を1万人以上抱えている。自分で料理する（共）とて栄養バランスを考えた食生活を送れるし、同じ興味を通じた新たな交友関係もあるだろう。

男子料理教室メンズキッチンを主宰する福本陽子さんは「男性は料理の上達につれ、包丁や鍋など高い調理道具を惜しまなく購入しがち」と語る。進行するゾロ社会は、日本が世界に先駆けて直面する課題だが、可処分所得の高い単身者のライフスタイルを深掘りするが、マーケティングが多岐にわたっている。

（商い創造研究所代表 松本大地）

ライフスタイル